



日本語能力の自動判定

オンラインで自動採点

インターネットに接続してあるコンピュータで受験ができます。解答は即座に自動採点します。テスト終了と同時に画面上に得点が示され、日本語能力が判定されます。

問題の自動最適化

レベルに合わせて問題が変化

受験者のレベルに合わせて、コンピュータが適切なレベルの問題を選んで出題します。受験者ごとに出题される問題が変わります。アダプティブテストという技術を使い、各問題の難易度によって出題問題を変化させるとともに受験者のレベルを判定します。

登録の自動化

WEB上でアクセスして実施

J-CATのホームページ www.j-cat.org で登録すると、72時間以内にパスワードがeメールアドレスに届きます。学校単位、クラス単位で受験する場合には、機関受験が利用できます。機関受験には様々な方式があります。詳しくはウェブサイトでご確認ください。

成績証の自動作成

成績証と成績一覧

テスト終了と同時に成績証を自動的に作成します。成績証は印刷およびPDF形式での保存ができます。機関受験の場合には、テスト監督者に受験者全員の成績一覧が3日(土日・祝日除く)程度で送付されます。Excelファイルですので、ソートや分析が自由に行えます。



J-CAT®

Japanese Computerized Adaptive Test

<http://www.j-cat.org>

J-CAT プロジェクトチーム

今井新悟、伊東祐郎、中村洋一、菊地賢一、赤木彌生
中園博美、本田明子、平村健勝

協力

浅田岐依、龍麗那、鍾鴻宇
他、アイテムライター、プレテスト協力校など多くの方々
ので協力に感謝いたします。

【代表者】

筑波大学留学生センター
日本語日本事情遠隔教育拠点
今井新悟

【事務局連絡先】

筑波大学留学生センター
日本語日本事情遠隔教育拠点
荒木将史
Tel 029-853-5895
E-mail mail@j-cat.org

人と環境に優しいテスト

J-CAT は学習者と教師と環境に配慮したテストです

ソリューション

- ・受験者のストレス軽減
- ・受験時間の短縮
- ・テスト実施の負担軽減
- ・ペーパーレスで CO2 削減

毎年新たにやってくる留学生。プレースメントテストを受けて、各クラスに分けられます。コースが終わればまたテストを受けます。毎年テストを作るのは大変です。採点も大変です。それなのに、テストを作り直すたびに、点数を比較することはできなくなります。日本語力がどのように伸びているのか、継続して客観的に示すことができません。「日本語能力試験」のようなテストは有料で、いつでも利用できるわけではありません。そんな自分たちの悩みを解決するためにこのテストを開発しました。

アダプティブテストですべてのレベルに対応

受験者は各自のレベルにあった難易度の問題に解答します。難しすぎる問題や簡単すぎる問題は出題されません。難しすぎる問題や簡単すぎる問題はレベルの判定には役立ちませんし、そのような無駄な問題が続くと、受験者はストレスを感じます。無駄な問題をやめ、自分のレベルに合った、ちょうどいい難易度の問題だけを問題を出題することで、受験者のストレスを取り除きます。

受験者のレベルに合った問題を出題しますので、効率的にレベル判定が行えます。ちょうど、視力検査のイメージです。視力検査ではいくつかの環を指し示して、ギリギリ見えるところが視力と判定されます。アダプティブテストもこの原理で受験者の能力を判定します。ですから、普通のテストに比べて、精度を保ったまま、テスト時間を短くすることができます。



テスト実施の負担軽減

インターネットとコンピュータさえあれば、いつでも国内外を問わずにテストが実施できます。テスト作成から、実施、採点まですべて自動化されており、これまでのテストにかかる労力を劇的に軽減します。



ペーパーレスで CO2 削減

テストの問題用紙も解答用紙も使わないペーパーレス化を実現しました。テスト後の大量の紙の廃棄に心を痛めることもありません。



構成と受験時間

聴解、語彙、文法、読解の4セクション、合計400点で評価します。受験者ごとに出題問題と問題数が変わり、受験時間も変化します。45分～90分が目安です。



受験期間の制限

短期間に何度も受験しても、能力の伸びを点数で実感することはできませんので、6か月以上の期間を空けて受験くださるようお願いいたします。ただし、6か月に満たないで(学期制の都合等)受験が必要な場合は、事務局にお問い合わせください。



J-CAT は無料です



J-CATは新しいテスト技術研究のために開発し、無料で提供しています。

解答記録のデータは研究のために統計的に利用させていただきます。個人名・所属などの情報が特定されることはありません。科学研究費基盤 (A) (18202012) の助成を受けています。